

応用生態工学会第 20 回大会（20 周年記念東京大会）案内

応用生態工学会第 20 回大会（20 周年記念東京大会）
2016 年（平成 28 年）9 月 2 日（金）～9 月 5 日（月）
第 20 回総会・研究発表会・公開シンポジウム・自由集会・エキスカーション

1. 大会概要

応用生態工学会では、2016 年（平成 28 年）9 月 2 日（金）～5 日（月）に東京都文京区（東京大学農学部）にて、第 20 回大会（20 周年記念東京大会）を開催します。

9 月 2 日（金）～3 日（土）に行われる研究発表では、45 件の口頭発表、72 件のポスター発表が行われます。また、自由集会は 9 つの集会が企画されています。

9 月 4 日（日）には、公開シンポジウム『気候変動下における自然と地域社会のレジリエンスー応用生態工学の新たな展開ー』を開催します。前半の講演の部では、会長である辻本哲郎名古屋大学名誉教授から、工学分野から見た応用生態工学の 20 年間の評価と今後の課題について、前会長である谷田一三大阪府立大学名誉教授から、生態分野から見た応用生態工学の 20 年間の評価と今後の課題についてお話しいただきます。第 2 部では、工学、生態学、農業計画、環境社会学の観点から、適応及びレジリエンスに関するご講演をいただき、後半のパネルディスカッションの部では行政の方にも登壇いただき、さまざまな関係者が活発な意見交換・情報交換を行えるシンポジウムとしたいと考えています。なお、このシンポジウムは公益財団法人河川財団の河川基金の助成を受けて実施し、一般にも公開します。

大会最終日の 9 月 5 日（月）には、気候変動に起因する豪雨災害への対応や長期にわたる環境変化にも適応した環境施策を行っている場所を見学するエキスカーションを行います。

なお、本大会は、土木学会継続教育（CPD）プログラムに認定されています。

【会場】

○研究発表・総会・公開シンポジウム：東京大学農学部弥生講堂，農学部 1 号館

住所：東京都文京区弥生 1-1-1

電話：03-5841-8205（弥生講堂事務室）

URL：<http://www.a.u-tokyo.ac.jp/yayoi/>

○懇親会：東京大学農学部 3 号館 農学部食堂

○エキスカーション：利根大堰，渡良瀬遊水地，首都圏外郭放水路

【大会日程】

9 月 2 日（金）

- | | | |
|----------------------------|-------------|-----------|
| ・自由集会「小さな自然再生が中小河川を救う！V」 | 9:00～11:00 | 一条ホール |
| ・自由集会「ダム下流河川の生物群集の特性とその要因」 | 9:00～11:00 | 第 8 講義室 |
| ・自由集会「生態系の自然浄化機能の理解と活かし方」 | 9:00～11:00 | 第 6 講義室 |
| ・ポスター発表（コアタイム A） | 11:00～12:00 | セイホクギャラリー |
| ・ポスター発表（コアタイム B） | 13:00～14:00 | セイホクギャラリー |
| ・自由集会「応用生態工学で UAV を活用する！」 | 14:30～16:30 | 一条ホール |

- ・会議「第5回河川砂防技術基準（調査編）をもとにした意見交換会」（傍聴可）

14:30～16:30 弥生講堂会議室

- ・自由集会「生物多様性の評価におけるβ多様性の重要性」

14:30～16:30 第8講義室

- ・自由集会「河川生態を分かり易く表現する」

16:45～18:45 一条ホール

- ・自由集会「河川環境保全の現場：過去・現在・未来」

16:45～18:45 第8講義室

9月3日（土）

- ・口頭発表

9:00～12:15 一条ホール, 第8講義室

13:00～15:30 一条ホール, 第8講義室

- ・自由集会「田んぼのいきものをどうやって守っていくか？

ー水田水域における多様な生物の保全と再生ー

15:45～17:45 一条ホール

- ・自由集会「菊池川における河川生態学術研究：菊池川流域

における地質による山地溪流の生態系の差異

および氾濫原の環境の劣化と再生」

15:45～17:45 第8講義室

- ・懇親会

18:00～20:00 3号館農学部食堂

9月4日（日）

- ・総会

10:30～11:30 一条ホール

- ・発表賞表彰

11:30～12:00 一条ホール

- ・公開シンポジウム

「気候変動下における自然と地域社会のレジリエンス

ー応用生態工学の新たな展開ー」

13:00～17:00 一条ホール

9月5日（月）

利根大堰～渡良遊水地～江戸川および首都圏外郭放水路コース

09:00 JR 高崎線「行田駅」集合・出発

利根大堰下流の現地見学（砂礫河原再生，たまり池再生，湿地整備等）

渡良瀬遊水地の現地見学（水辺再生，エコロジカルネットワーク等）

河道掘削における湿地環境の創出・復元箇所，首都圏外郭放水路の現地見学

16:25 東武野田線（東武アーバンパークライン）「南桜井駅」解散

<参加／発表される皆様へ>

《受付》

- ・9月2日(金)は，8:30 から参加の受付を開始します。受付は，時間帯によって非常に混雑することが予想されます。早めに受付をお済ませください。
- ・9月3日(土)は，8:30 から参加の受付を開始します。発表者のパワーポイントファイルの受付は8:30 から行います。
- ・9月4日(日)の総会は，10:00 から参加の受付を開始します。
- ・9月4日(日)の公開シンポジウムは，12:30 から参加の受付を開始します。公開シンポジウムのみに参加される方は無料です。
- ・9月5日(月)のエクスカージョンは，参加申し込みをされた方に，集合や移動，注意事項等の詳細を改め

てお知らせします。

- ・受付は弥生講堂一条ホール前のエントランスです。名札をお渡ししますので、会場内では必ず名札を付けてください。
- ・研究発表会参加費は、会員 6,000 円、非会員 10,000 円、学生（会員・非会員）3,000 円です。参加費には講演要旨集の料金が含まれています。大会運営をスムーズに行うため、事前申込および振込にご協力ください。
- ・懇親会参加費は一律 5,000 円です。当日、会場にて徴収いたしますが、参加者人数を把握する必要がありますので、参加の有無について事前にお申込みください。

《口頭発表される方へ》

- ・口頭発表は全て備え付けのパソコンとプロジェクターで行います。パソコンの持ち込みはできません。OS は Windows 8、プレゼンテーションソフトは Power Point 2013 (Office 2013) です。Mac、古いバージョンの Power Point、あるいはその他のソフトでプレゼンテーションを作成される方は、事前に Power Point 2013 で動作するか確認を行ってください（動作確認を希望される方は会場係に申し出てください）。また、備え付けのパソコンは、通常の Windows 8 日本語版で標準にインストールされているフォントのみが表示できます。
- ・パワーポイントのファイルは、発表番号と発表者の名字の英語表記をファイル名とし（例：A01_osugi）、発表会場の受付に提出してください。ファイルはウィルスに感染していないことを確認のうえ、USB メモリ、CD-R で持参してください（MO、DVD、CD-RW は不可）。提出期限は以下のとおりです。

9 月 3 日 (土)	午前セッション (A, B, C, D)	9:00 まで
	午後セッション (E, F)	12:00 まで

- ・発表時間は発表 12 分、質疑応答 3 分の合計 15 分です。1 鈴：10 分、2 鈴：12 分、3 鈴：14 分 30 秒です。時間厳守にご協力ください。
- ・発表直前にパソコンへファイルをコピーされる場合は、その作業時間も発表時間とみなします。上記提出期限までにファイルを提出していただくことをお奨めします。
- ・パソコンの操作は基本的に会場係が行いますが、自分で操作される方は会場係にお伝えください。

《ポスター発表される方へ》

- ・ポスター発表の会場は、セイホクギャラリーです。パネルにポスター番号を貼り付けていますので、ご自分の発表番号のパネルにポスターを貼り付けてください。
- ・ポスターは横 90 cm、縦 180 cm 以内のサイズで作製してください。ただし、縦のサイズは床からのパネル高さのため、見やすい位置に貼り付けられるポスターサイズをお勧めします（A0 判 841mm×1,189mm を推奨します）。
- ・ポスターの上部に演題・発表者・所属を書いてください。発表者が複数の場合は、代表発表者の名前の前に○印を付けてください。
- ・ポスターの掲示期間は 9 月 2 日 (金)～3 日 (土)15:30 までの期間とし、ポスターは 2 日 (金)の 8:30～11:00 の間に持参者自身で掲示してください。
- ・ポスター発表の発表件数が多いため、コアタイムは 2 部制にいたします。各コアタイムとも 1 時間です。
- ・コアタイム A（発表番号末尾奇数の方）は、9 月 2 日 (金)11:00～12:00、コアタイム B（発表番号末尾偶数の方）は、9 月 2 日 (金)13:00～14:00 です。ご自身のコアタイムのスケジュールをご確認され、自分

の該当するコアタイムでは、ポスターの前で発表を行ってください。

- ・ポスターの撤収は9月3日(金)15:30 から 18:00 の間までに持参者自身で撤収してください。掲示時間を過ぎてもポスターを貼り付けたままの場合は、実行委員がポスターを取り外します。取り外したポスターは、大会期間中は実行委員会で保管いたしますが、大会後は処分します。
- ・ポスターの事前送付は、事故防止のため一切受け付けません。発表当日に各自で持参してください。ポスターを貼り付ける押しピン、セロテープ等は会場に準備しています。指示棒などは各自持参してください。
- ・PC などの電子機器でデモンストレーションを行っても構いませんが、電源はありません。また、大きな音の鳴るデモンストレーションなど、周囲の発表者への迷惑となる行為はご遠慮ください。

《発表賞》

- ・申請のあった若手研究者、現場技術者または行政担当者の発表から優秀発表賞を選定します。研究の内容、プレゼンテーション技術などを基準に審査します。口頭／ポスターおよび研究／事例の各類別（全4類別）について秀でた発表に優秀発表賞（各若干名）を、最も秀でた口頭発表およびポスター発表に最優秀発表賞（各1名）を授与します。
- ・4日（日）の総会（10:30～11:30）に続いて、優秀発表賞の表彰を行います。

2. 公開シンポジウム

＜このシンポジウムは、公益財団法人 河川財団の河川基金の助成を受けています。＞

【テーマ】

「気候変動下における自然と地域社会のレジリエンスー応用生態工学の新たな展開ー」

【企画のねらい】

応用生態工学が目標とする「人と生物の共存」「生物多様性の保全」「健全な生態系の持続」を実現するためには、地域における自然環境の保全と人間の暮らしを調和させる必要がある。一方で、地球温暖化に伴う豪雨災害が多発し、それに伴って国土強靱化が叫ばれ、平成 27 年 11 月には気候変動適応策が閣議決定された。このような状況に対して、環境と地域社会のレジリエンスを高めることが、未来を見据えた重要なテーマとなっている。応用生態工学はこれまで生態学・工学の間の学際領域に新しい視点をもたらしてきたが、今後は社会学・経済学等とも連携し、総合化を図ることがこの課題に対する応用生態工学の果たすべき役割であると考えられる。本シンポジウムは応用生態工学会 20 周年記念大会のハイライトとして、この応用生態工学の新たな展開を議論し、地域社会への貢献の方策を探る機会とする。

【公開シンポジウム プログラム(案)】

9 月 4 日 (日)

13 : 00 趣旨説明

13 : 10 第 1 部 「応用生態工学の評価と課題」

- ・応用生態工学会会長 辻本哲郎 (名古屋大学名誉教授)
- ・応用生態工学会前会長 谷田一三 (大阪府立大学名誉教授)

第 2 部 「新たな視点と連携」

- ・島谷幸宏 (九州大学教授)
- ・西廣淳 (東邦大学准教授)
- ・広田純一 (岩手大学教授)
- ・宮内泰介 (北海道大学教授)

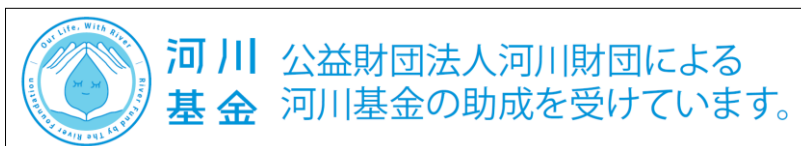
第 3 部 パネルディスカッション

コーディネーター：中村太士 (北海道大学教授)

パネリスト : 第 2 部登壇者、行政関係者等

17 : 00 終了予定

【参加費】 無料



3. 自由集会 等

9つの自由集会が開催されます。集会には所属等によらず参加でき、事前申込は不要です。また、「河川砂防技術基準（調査編）をもとにした意見交換会」（会議）が開催されます。

A. 「小さな自然再生が中小河川を救う！Ⅴ」

【企画】三橋弘宗（兵庫県立大），林博徳（九州大），原田守啓（岐阜大）

【日時・会場】9月2日（金）9:00～11:00 一条ホール

【趣旨】2012年以来、自由集会「小さな自然再生が中小河川を救う！」のタイトル名により4回の集会を積み重ねてきた。一昨年度に事例集の作成と発刊を契機として、全国各地に様々な取り組みが行われるようになり、多様な主体による参画が推進されている。技術面においても、魚道や河道変化に限らず、様々な工夫が取り入れられるほか、普及に伴って安全面への配慮についても考え方が整理されつつある。今回の集会では、これまで紹介されてこなかった方法（シードバンク）や行政による参画の方法（市、県や国），そして安全管理についての話題を取り上げ、より実務的に展開し、より多くのセクターからの参加を促すための方策について議論したいと思います。

【プログラム】

司会： 三橋弘宗・林博徳

話題提供： 各15分程度×5件（計75分程度）

①これまでの経緯と開催の趣旨説明 （三橋）

②事例紹介

「池を掘ってシードバンクをリフレッシュ」

西廣淳（東邦大学）

「行政発信の小さな自然再生 豊田市岩本川モデルの挑戦」

伊藤匠・田中五月（一般社団法人 ClearWaterProject）

「河川整備で活かす小さな自然再生の取り組み紹介」

竹内えり子（建設技術研究所）

「小さな自然再生のための水理検討 入門編」

原田守啓（岐阜大学）

③小さな自然再生研究会の発足と実務講習会の案内（JRRN）

会場からのコメントと議論

B. 「ダム下流河川の生物群集の特性とその要因」

【企画】谷田一三（大阪市立自然史博物館），一柳英隆（水源地環境センター）

【日時・会場】9月2日（金）9:00～11:00 第8講義室

【内容】ダム下流は、ダムによる流況、流砂、水温・水質、粒状有機物などの変化を要因として、河川の生物群集が変化する。このことについては、応用生態工学会の前身の同研究会設立時以来、広く興味を持たれ、会誌『応用生態工学』においても特集がされている（1999年）。それ以降も、各研究者により研究が続けられているが、いったい何がどこまでわかったのだろうか？

ダム直下がどのような生物群集になるのか、ダムの規模や運用方法などによってどのように反応が異なるのか、どのような要因が主に効いているのか、いままでの研究を総括するとともに、

これからのダム管理にも貢献する研究について議論したい。

【プログラム】

- 一次生産者「ダムによって注目される一次生産の脇役たち：矢作川の事例から」

内田朝子（矢作川研究所）

・コメント：森 照貴（東京大学）

- 底生動物「底生動物群集はダム下流でどう変化しどう緩和されるか？」

片野 泉（奈良女子大学）・土居秀幸（兵庫県立大）・三橋弘宗（兵庫県立人と自然の博物館）・水守裕一・松岡真里奈・角絢香（兵庫県立大）

・コメント：一柳英隆（水源地環境センター）

- 魚類「ダム上下流の魚類群集比較の解析事例」小野田幸生（共生センター）

加藤康充（建設環境）・森 照貴（東京大学）・末吉正尚（共生センター）

・コメント：田代喬（名古屋大学）

- ★コメント（議論の導入として）：竹門康弘（京都大学防災研究所）

議論：谷田一三（大阪市立自然史博物館）コーディネーター

総括：辻本哲郎（名古屋大学名誉教授）

C. 「生態系の自然浄化機能の理解と活かし方」

【企画者】中野和典（日本大学工学部）、渡辺敏（株式会社ウエスコ）

【日時・会場】9月2日(金)9:00～11:00 第6講義室

【内容】人の生活にとって役立つ生態系機能について、概念は知っていても、具体的にわかって操れる人は少ないのが現状です。メカニズムを科学的に理解すれば、生態系の再生や資源利用に対して、今よりもっと積極的になれるはずです。

水質浄化を主題としつつ、快適な環境とヒトの生活を目標として、生きものによる浄化対策の実例、自浄作用の実測に関する情報、意見を交流します。

これまで当学会で扱われることが少なかった分野での意見交換です。今後実装例を増やすためにも、経験、興味のある方のご意見、ご批判を求めます。気軽にご参加ください。

D. 「応用生態工学で UAV を活用する！」

【企画者】山田浩之（北海道大学）・伊豫岡宏樹（福岡大学）・上野裕介（東邦大学）

【日時・会場】9月2日(金)14:30～16:30 一条ホール

【内容】UAV（ドローンとも呼ばれる）の機体性能の向上、SfM（Structure from Motion）技術の発展によって、自律飛行やオルソ画像の作成、地形測量が簡便に実施できるようになり、貨物運送や農業、災害分野など様々な分野での利活用が進んでいる。応用生態工学会でも環境や生物相調査での事例発表が増えつつあり、今後の益々の発展・普及が期待される場所である。この自由集会では、UAV 調査や SfM 技術の基礎、UAV に関する最近のトレンド、UAV を用いた様々な対象のモニタリング事例、微地形測量、ヒヤリハット事例や苦労話などについて話題提供いただき、各種調査に最適な UAV やソフトウェア、今後の展望、安全な運用方法などについて意見交換を行いたい。

【プログラム】

趣旨説明：山田浩之（北海道大学）

話題提供：

1. UAV でわかること，わからないこと：動植物や景観調査の事例から：上野裕介（東邦大学）
2. UAV-SfM による干潟モニタリングとハビタット評価：伊豫岡宏樹（福岡大学）
3. 大地をスキャンする！ 河川，湿地，森林の調査事例：丹羽英之（京都学園大学）
4. UAV を使ったちょっと変わった調査法：山田浩之（北海道大学）

総合討論：

コメンテーター 鎌田磨人（徳島大学）

E. 会議「第5回河川砂防技術基準（調査編）をもとにした意見交換会」（傍聴可）

【意見交換メンバー】

国土技術政策総合研究所：松尾水環境研究官，福島主任研究官
土木研究所：萱場祐一上席研究員
土木学会水工学委員会環境水理部会：芝浦工業大学 宮本仁志教授，鳥取大学 矢島啓准教授，
山口大学 赤松良久准教授
応用生態工学会：徳島大学 河口洋一准教授，名古屋大学 田代喬准教授，
東邦大学 西廣淳准教授，国際航業 中村敏一

【日時・会場】9月2日(金)14:30～16:30 弥生講堂会議室

【主旨】国土交通省においては，平成24年6月に河川砂防技術基準（調査編）（以下，河砂基準）が改定されました．その総論には「新たな調査方法等の採用に当たっては，国土技術政策総合研究所等による関連情報の収集・調査等によるほか，学識者や関係者等の意見を聞くことにより最新の調査方法，技術的知見，課題等を把握する作業を定期的に行い，調査編の内容を見直すこと」としており，産官学の連携を通じた河川管理技術の向上が期待されています．

このたび，河砂基準の環境分野の記載が，最新の学術的・技術的水準および現場実務での活用実態・実績を踏まえたうえで，必要かつ十分なレベルで適宜改定されるよう学識者や関係者等と意見交換を行うことを目的として第5回意見交換会が開催されます．

※傍聴について：傍聴希望者は傍聴可能です．ただし，傍聴者の発言はできません．

F. 「生物多様性の評価における β 多様性の重要性」

【企画者】森 照貴（東京大学）

【日時・会場】9月2日(金)14:30～16:30 第8講義室

【内容】応用生態学や保全生態学において，生物多様性を評価することは基本であり，特に種多様性に関しては多くの知見が積み重ねられてきた．しかし，種多様性を評価してきた多くの研究は，比較的小さな空間スケール（局所スケール）で観察される群集に注目し，その群集に含まれる種数（ α 多様性）や種構成に基づいた多様度指数のみを対象としてきた．一方，群集間にある種構成の違い（ β 多様性）やより大きな空間スケール（地域スケール）で観察される種数（ γ 多様性）についても，言及した研究は少ないのが現状である．局所スケールでの種数（ α 多様性）の減少は，必ずしも地域全体の種数（ γ 多様性）の減少を引き起こすわけではない．その一方で，局所

スケールでの種数 (α 多様性) が増加したとしても地域全体の種数 (γ 多様性) が低下することもある. α 多様性と γ 多様性といった二つの指標が示す変化は, β 多様性を考えることで理解することが可能であり, $\alpha \cdot \beta \cdot \gamma$ 多様性といった 3 つの指標を一緒に考えることは種多様性を評価する上で重要だと考えられる. ただし, β 多様性の計算方法は数多くあり, 類似度もしくは非類似度といった名称で計算されることも多い. そこで, 本自由集会では, これまで発表されてきた β 多様性を整理するとともに, それぞれの指標が何を意味するのかについて紹介する. そして, 実際に β 多様性を用いて人為的インパクトを評価した研究例を紹介し, 最後に β 多様性をどうやって使っていくべきなのか議論していきたい.

【プログラム】

■イントロ (20 分)

「 β 多様性とは何をあらわしているのか?」 森 照貴 (東京大学)

■話題提供 (各 20 分×4)

「氾濫原における水域の孤立化が植物群集に及ぼす影響」 片桐 浩司 (土木研究所)

「河川における流域の農地利用が底生動物群集に及ぼす間接的影響」 末吉 正尚 (土木研究所)

「農地における土地利用の変化が植物—植生性昆虫群集に及ぼす影響」 内田 圭 (東京大学)

「河川におけるダムが存在が底生動物群集に及ぼす影響」 森 照貴 (東京大学)

■議論 (20 分)

G. 「河川生態を分かり易く表現する」

【企画者】 田代 喬 (名古屋大学)

【日時・会場】 9 月 2 日 (金) 16:45~18:45 一条ホール

【内容】 河川生態を理解するためには, 実際の河川に見られる様々な事物や事象を直接的に観察・観測する活動が基礎となる. しかしながら, 河川は複雑かつ変動的な対象であり, 現場では捉えにくく感じ取りにくい多くの要素から成立している. 本自由集会では, 「博物館における河川生態の展示・教材化」や「河川生態を利用した実践・体験型学習」の取り組みを紹介いただきながら, 河川生態を分かり易く伝える意義を再確認し, その方法について議論したい.

昨年度大会で企画・実施した「応用生態工学ならではの魅力ある普及・啓発コンテンツとは?」とその後の議論の整理から, テーマを絞って展開する.

【プログラム】

趣旨説明: 田代 喬 (名古屋大学)

話題提供 1: 河川生態の展示・教材化: 三橋弘宗 (兵庫県立人と自然の博物館)

話題提供 2: 河川生態を利用した実践・体験型学習: 野崎健太郎 (相山女学園大学)

事例報告: 映像メディアの活用: 渡辺友美 (お茶の水女子大学・早稲田大学)

総合討議: 方法論の整理・捉え方と見せ方: 吉富友恭 (東京学芸大学)

コメント: ホームページコンテンツなどへの展開: 沖津二郎 (応用地質)

H. 「河川環境保全の現場: 過去・現在・未来」

【企画者】 原田守啓 (岐阜大)・久米学 (京都大)

【日時・会場】 9 月 2 日 (金) 16:45~18:45 第 8 講義室

【内容】 応用生態工学に関わる研究者・技術者が、河川環境保全の現場に関わる機会は、年々増えてきている。とくに、生態学、河川工学分野の研究者においては、現場に携わる場面が増えるにつれて、専門的な見地から如何に有効な助言をできるのかという点で、その存在意義が問われているのではないだろうか？その一方で、研究者の助言が、現場において有効に機能しない状況や、技術者の提案が発注者に受け入れられにくい状況があったりもする。また、関係者間のコミュニケーションがうまくいったとしても、その他の要因によって、保全目標が達成できないケースや、結果の検証がなされていないケースもあるだろう。

そこで、本自由集会では、河川環境保全に向けた取り組みが有効に機能するために研究者・技術者が留意すべきことを明確にすることを目的とする。そのために、我が国における取り組みの黎明期から現場に関わってきた研究者・技術者による異なる視点の経験談から、「河川環境保全の現場への関わり方」についての課題と対応策を抽出し、総合討論を通じて共有したい。そして、応用生態工学会の若い世代の研究者・技術者が、河川環境保全の現場でより活躍していける道筋を探りたい。

【プログラム】

1. 趣旨説明 (10 分)

河川工学の立場から：原田守啓（岐阜大）

生態学の立場から：久米学（京都大）

2. 話題提供 (20 分+質疑 5 分)

1) 佐川志朗（兵庫県立大）：（仮）検証可能な調査デザイン、現場の苦勞

2) 鬼倉徳雄（九州大）：（仮）生態学者としての現場への関わり方と闘い方

3) 渡辺敏（ウエスコ）：（仮）コンサルタント業務を通じた河川環境保全の提案の仕方

3. 総合討論 (35 分)

I. 「田んぼのいきものをどうやって守っていくか？ ー水田水域における多様な生物の保全と再生ー」

【企画者】 田和康太（兵庫県立大学）・佐川志朗（兵庫県立大学/兵庫県立コウノトリの郷公園）・河口洋一（徳島大学）

【日時・会場】 9月3日(土)15:45～17:45 一条ホール

【内容】 水田とその周辺の農業水路やため池、承水路などで構成される水域はいわば水田水域と呼べるものであり、これらの連続性の高い水域では、豊かな生物多様性が維持されてきた。このことは、弥生時代以降、人間が後背湿地を水田に作り変えたことで、かつて後背湿地に生息していた多種の生物が、水田を代替生息地として利用したためと考えられている。しかし、全国的な傾向として、戦後の強毒性農薬の使用や1960年代から本格化した圃場整備事業による水田水域の連続性消失、中山間部での耕作放棄の進行等により、水田水域における生物多様性は大幅に低下した。そうした中、1990年代以降、全国的な水田の生物多様性保全に対する観点の高まりとともに、減・無農薬栽培や湿田および未整備の水田の特性を生かした工法と農法によって様々な取り組みが実施され、その効果が期待されている。本集会では、水田水域に生息する生物を対象とした各地の取り組みとそれらの工法や農法に対する定量的評価の結果を紹介し、水田水域における生物の保全を将来的にどのような手段で進めていくべきか議論する。今後、本集会のシリーズ化を予定しており、初回では、鳥類や魚類といった大型種を中心とした保全事例に着目する。

【プログラム】

趣旨説明（田和康太・佐川志朗・河口洋一）5分

話題提供

＜鳥類＞ 40分

コウノトリ野生復帰地における取り組みとその効果（佐川志朗（兵庫県立大学/兵庫県立コウノトリの郷公園））

トキ野生復帰地における取り組みとその効果（関島恒夫（新潟大学））

＜魚類＞ 45分

海域から水田域までのエコロジカルネットワークの確保による魚類群集の保全－鎌谷川を事例に－（田和康太（兵庫県立大学））

魚のゆりかご水田の取り組みとその効果（皆川明子（滋賀県立大学））

農業水路におけるスイゲンゼニタナゴの保全に向けて（中田和義（岡山大学））

総合討論（司会：河口洋一（徳島大学））25分

コメント（江崎保男（兵庫県立大学/兵庫県立コウノトリの郷公園））5分

Ⅱ. 「菊池川における河川生態学術研究：菊池川流域における地質による山地溪流の生態系の差異および氾濫原の環境の劣化と再生」

【企画者】島谷幸宏（九州大学）

【日時・会場】9月3日（土）15:45～17:45 第8講義室

【内容】国土交通省河川砂防技術研究開発，河川生態分野の公募研究に平成26年度採択された菊池川流域の研究成果の発表です。

菊池川は，九州中部に位置する流域面積約1,000 km²の河川で，源流域は阿蘇火砕流の影響を受け流域地質は複雑で，下流域は盆地と平野があり絶滅の危機に瀕する2枚貝やタナゴ類が生息する氾濫原です。

集会では渓流域，氾濫原域について発表します。渓流域では溶結凝灰岩，花崗岩，安山岩，泥質片岩の4種類の地質により，溪流形態が異なり，そこに生息する生物も地質の影響を受けていることを発表します。氾濫原では二枚貝やタナゴ類の現状，氾濫原生態系を保全するための方法について発表します。その後，討論を行いたいと思います。

【プログラム】

- ・研究の概要
- ・溪流の形態と生物相
- ・氾濫原の現状と氾濫原依存生物の保全手法

4. 賛助会員展示コーナー

賛助会員による企業紹介，技術紹介等のポスター展示を行います。

場所：弥生講堂アネックスホール セイホクギャラリー

期間：9月2日（金）～3日（土）

5. エクスカーション

エクスカーションは、利根大堰～渡良遊水地～江戸川および首都圏外郭放水路コースを実施します。

公開シンポジウムのテーマである「気候変動下における自然と地域社会のレジリエンスー応用生態工学の新たな展開ー」に沿ったエクスカーションとし、気候変動に起因する豪雨災害への対応や長期にわたる環境変化にも適応した環境施策を行っている場所を見学し、その取り組みについて学びます。

① 利根大堰下流

地域に根ざす利根川を目指し、治水対策と環境対策との共存が期待される適切な掘削と管理を行うため、利根大堰下流域において治水と環境の一体的な対策が進められている。

② 渡良瀬遊水地

遊水地の機能と自然再生や水辺環境の保全・再生と地域振興・経済活性化の実現を目指す、エコロジカルネットワーク形成に向けた取り組みが行われている。

③ 江戸川河道掘削における湿地環境の創出・復元

河川改修（河道掘削）に合わせ、江戸川河川敷にかつてあった湿地環境や、水際の連続性（エコトーン）を創出し、湿地、樹林、草地のバランスのとれた河川環境（多様な生態系の基盤創出）を目指している。

④ 首都圏外郭放水路

首都圏外郭放水路の整備は、中川・倉松川・大落古利根川等の洪水の際、その水の一部を江戸川へ放流するために各河川間を地下で結ぶ放水路を建設したもので、これにより流域の浸水被害を解消または軽減し、より安全で良好な生活環境を創造することとしている。

【コース・日程(予定)】

- 9月5日(月) 09:00 JR 高崎線「行田駅」東口ロータリー出発
09:25 利根大堰下流の現地見学（砂礫河原再生、たまり池再生、湿地整備等）
11:15 渡良瀬遊水地の現地見学（水辺再生、エコロジカルネットワーク等）
12:30 昼食
14:30 河道掘削における湿地環境の創出・復元箇所、首都圏外郭放水路の見学
16:25 東武野田線（東武アーバンパークライン）「南桜井駅」解散

※定員 40 名 先着順とします。

※参加申し込みをされた方には、集合や移動、注意事項等の詳細を改めてお知らせします。

6. 懇親会

懇親会は、第2日目（9月3日（土））の自由集会の後、18:00 から農学部3号館の農学部食堂で行います。また、毎回好評の「全国からうまいものを持ち寄る普及連携委員会」コーナーも充実しております。その他、学会20年のあゆみを整理したポスター展示も用意します。ぜひご参加ください。

【日時】

平成28年9月3日（土） 18:00～20:00

【会場】

東京大学消費生活協同組合 農学部食堂

住所：〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1 農学部3号館 農学部食堂

7. 参加申し込み方法

【申し込み先】

応用生態工学会ホームページの「参加申込フォーム」もしくは参加申込用紙の FAX 送信によりお申込みください。申込期限は8月20日（土）、参加費の振込期限は8月25日（木）です。

参加申込フォーム: http://www.ecesj.com/FS-APL/FS-Form/form.cgi?Code=annual_conEntry

FAX によるお申込は、『参加申込書』にご記入のうえ、下記までお申込ください。

FAX 宛先：03-5216-8520

【参加費】

〔1〕研究発表会

会員：6,000 円，非会員：10,000 円，学生(会員・非会員)：3,000 円

※参加費には講演要旨集が含まれています。講演要旨集のみ希望の方は、3,000 円で販売しています。

※大会期間中、大学構内にある学食は、2日(金)のみ営業しています。大学周辺には飲食店、コンビニエンスストアがあります。別途 1,000 円でお弁当の用意ができます。希望される方は、参加申込時にあわせてお申し込みください。

〔2〕エクスカーショ

会員・賛助会員：2,000 円，非会員：3,000 円，学生(会員・非会員)：1,000 円

昼食は各自でご用意ください。事務局で用意することもできます。希望される方は9月3日(土)までに第20回大会事務局(受付)までお申込みください。

〔3〕懇親会

一律：5,000 円（懇親会費は当日、会場で徴収します。人数を把握するため、参加される方は事前にお申し込みください。）

【参加料振込先】

〔1〕銀行振込口座

銀行名：三菱東京 UFJ 銀行麹町中央支店

口座番号：(普通)1302920

〔口座名称〕応用生態工学会（オウヨウセイタイコウガクカイ）

〔2〕郵便振替口座

口座番号：00140－7－404275

口座名称：応用生態工学会

8. お問い合わせ先

応用生態工学会事務局

〒102-0083 東京都千代田区麹町 4-7-5 麹町ロイヤルビル 405 号室

TEL：.03-5216-8401 FAX：03-5216-8520

E-mail：tokyo_20th@ecesj.com

ー 会場へのアクセス・会場案内 ー

【会 場】

東京大学農学部弥生講堂，農学部 1 号館

(東京都文京区弥生 1-1-1)

電話：03-5841-8205 (弥生講堂)

URL：http://www.a.u-tokyo.ac.jp/yayoi/

【会場までの主な交通機関】

地下鉄：東京メトロ南北線「東大前」駅下車 徒歩 1 分

東京メトロ千代田線「根津」駅下車 徒歩 8 分

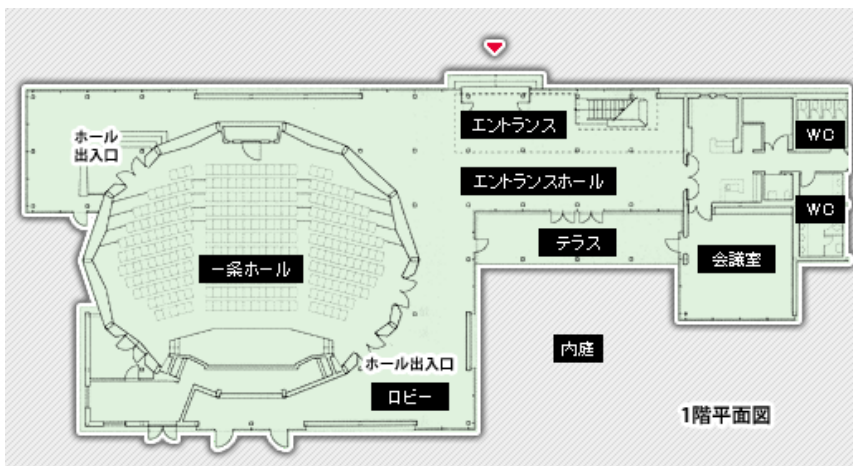
都営バス：御茶ノ水駅 (JR 中央線，総武線) より

茶 51 駒込駅南口又は東 43 荒川土手操車所前行

「東大 (農学部前バス停)」下車 徒歩 1 分

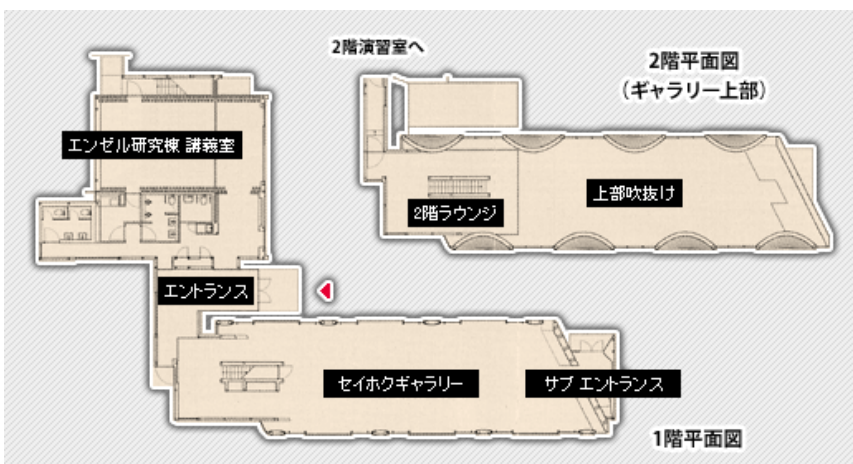


【東京大学農学部弥生講堂 案内図】



受付は
一条ホールエントランスです。

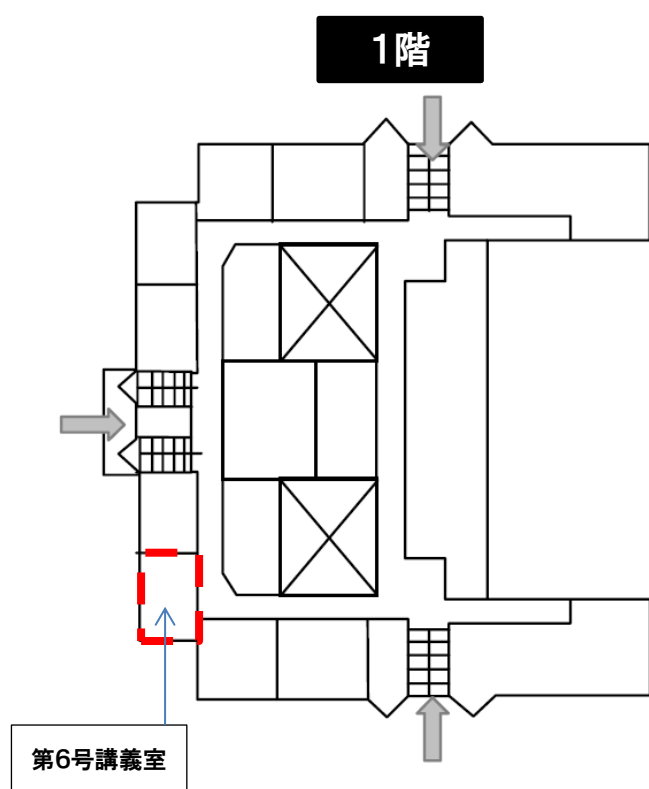
【東京大学農学部弥生講堂 一条ホール】



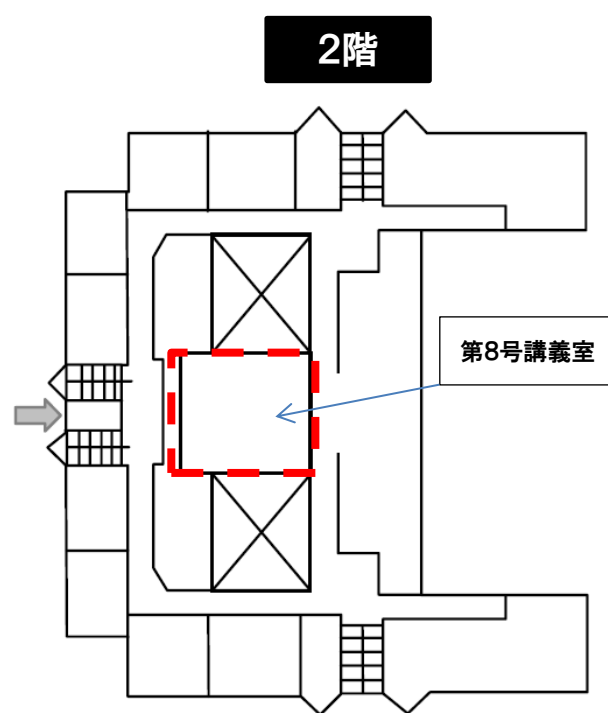
ポスターの掲示は
セイホクギャラリーです。

【東京大学農学部弥生講堂 アネックス】

【農学部 1 号館】



【 1 号館 1 階会場 配置図】



【 1 号館 2 階会場 配置図】

— プログラム・会場対応表 —

エンゼルホール		9月2日(金)		弥生講堂一条ホール(300名)		弥生講堂会議室(40名)		セイホクギヤラリー		1号館第8講義室(300名)		1号館第6講義室(50名)		エンゼルホール	
		8:30						受付開始							
実行委員 控室		9:00		自由集会 小さな自然再生		—		ポスター・賛助会員展示準備		自由集会 ダム下流河川生物		自由集会 生態系の自然浄化			
		11:00		—		—		ポスターコアタイムA		—		—			
		12:00		屋食時間		会誌編集委員会				屋食時間		普及・連携委員会			
		13:00		—		—		ポスターコアタイムB		—					
		14:30		自由集会 応用生態工学でUAV		会議 河砂基準意見交換会		ポスター・賛助会員展示		自由集会 生物多様性β多様性		—			
		16:45		自由集会 河川生態の表現		—				自由集会 河川環境保全の現場		—			
エンゼルホール		9月3日(土)		一条ホール(300名)		弥生講堂会議室(40名)		セイホクギヤラリー		第8講義室(300名)		第6講義室(50名)		エンゼルホール	
		9:00		口頭発表 A河川環境評価 6		—		ポスター・賛助会員展示		口頭発表 B水質・物質循環 6		—			
		10:30		口頭発表 C魚類生息環境 (12:15)		—				口頭発表 D陸域生態系 7		—			
実行委員 控室		12:00		屋食時間		委員会				屋食時間		委員会			
		13:00		口頭発表 E底生動物 10		—		ポスター・賛助会員展示		口頭発表 F水生植物 10		—			
		15:45		自由集会 水田水域の保全		—		ポスター・賛助会員展示撤去		自由集会 菊池川河川生態研究		—			
		18:00						懇親会(会場:農学部3号館 生協)							
エンゼルホール		9月4日(日)		一条ホール(300名)		弥生講堂会議室(40名)								エンゼルホール	
		9:00		—		幹事会・理事会		—		—		—			
		10:30		第20回総会		—		—		—		—			
		11:30		発表賞表彰		—		—		—		—			
		11:30						屋食時間							
		13:00		公開シンポジウム		—		—		—		—			
エンゼルホール		9月5日(月)						エクスカーション						エンゼルホール	
		9:00		17:00				利根大堰～渡良瀬遊水池～首都圏外郭放水路							

— 研究発表会プログラム —

【研究発表会・一般講演内容(ポスター発表)】

「※」発表者、タイトルの後の「研」は研究報告、「事」は事例報告、「審」は審査対象

ポスター発表 9月2日(金)ー1日目ー 11:00～14:00 [会場:セイホクギャラリー]	
11:00～12:00	コアタイムA(セッション末尾奇数番)
13:00～14:00	コアタイムB(セッション末尾偶数番)
セッションA 物質循環	
PA-1	河口湿地帯の二酸化炭素フラックスの動態解析:「研」 大谷壮介 [※] (大阪府立大学工業高等専門学校)・鞠川純平(同)
PA-2	汽水域の一次生産者による炭素固定機能の評価:「研」「審」 安原汰唯我 [※] (大阪府立大学工業高等専門学校)・辻大地(同)・大谷壮介(同)
PA-3	佐波川における一次元・二次元ハイブリット河川生態系モデルの開発:「研」「審」 河野誉仁 [※] (山口大学)・赤松良久(同)・永野博之(群馬工業高等専門学校)
セッションB ダム環境評価	
PB-1	ダム上流の魚類群集と生息域サイズとの関係性—河川水辺の国勢調査データを用いた全国スケールでの傾向把握—:「研」「審」 末吉正尚 [※] (土木研究所)・小野田幸生(同)・宮川幸雄(同)・堀田大貴(同／(株)建設技術研究所)・永山滋也(土木研究所)・萱場祐一(同)
PB-2	ダム下流部における流路と河川間隙水域の有機物分解速度の季節性:「研」 笠原玉青 [※] (九州大学)・李彦達(同)
PB-3	底泥濃度の違いが魚類の生残率と成長速度に与える影響:「研」「審」 片岡寛敬 [※] (近畿大学)・河内香織(同)
PB-4	矢作川支流の巴川におけるカワゲラの分布:「研」 藤本卓也 [※] (愛知工業大学)・内田臣一(同)
PB-5	砂礫可携巣を持つトビケラ類のダム上下流における巢材選択:「研」「審」 赤尾大樹 [※] (近畿大学)・河内香織(同)
セッションC 河口域・干潟	
PC-1	河口域の保全に向けた貝類相及び物理環境による河口域の類型化:「研」「審」 森田海 [※] (九州大学)・巖島怜(同)・島谷幸宏(同)
PC-2	瀬戸内海を中心とした干潟におけるウミナシの生息環境調査:「研」「審」 野元あい [※] (大阪府立大学工業高等専門学校)・大谷壮介(同)
PC-3	カニ類生息環境モデルの構築とそれらを適応した防潮堤水際域デザインの検討:「研」「審」 秋山秀樹 [※] (熊本大学)・皆川朋子(同)
PC-4	四国沿岸域におけるアマモ類 3 種の環境特性の比較と生息域推定:「研」「審」 中河哲郎 [※] (徳島大学)・乾隆帝(山口大学)・竹川有哉(徳島大学)・河口洋一(同)

セッションD 湖沼・湿地・水田・氾濫原

- PD-1 **畑地由来の養分・塩類負荷がミズゴケ類の被度に与える影響:「研」**
佐藤奏衣[※](札幌市立大学)・矢部和夫(同)・矢崎友嗣(北海道大学)・木塚俊和(北海道立総合研究機構)
- PD-2 **放棄水田を活用した湿地再生～印旛沼流域・八幡溜での試み～:「事」**
宮寄舞[※](東邦大学)・川井田美枝(同)・寺園直美(神崎川を守るしろい八幡溜の会)・西廣淳(東邦大学)
- PD-3 **岡山県南部の農業水路における国内希少野生動植物種スイゲンゼニタナゴの分布と環境要因の関係:「研」「審」**
咸成南[※](岡山大学)・宮武優太(同)・川井健太(同)・小林蒼茉(同)・齋藤稔(徳島大学)・青江洋(NPO法人倉敷水辺の環境を考える会)・中田和義(岡山大学)
- PD-4 **霞ヶ浦における2010年から2015年にかけてのアサザ植栽地での繁茂状況の変化:「研」「審」**
小室隆[※](東京大学)・山室真澄(同)
- PD-5 **氾濫原依存種保全の観点からみた高水敷緩傾斜掘削の評価:「研」「審」**
上杉幸輔[※](熊本大学)・伊東麗子((株)九州開発エンジニアリング)・皆川朋子(熊本大学)
- PD-6 **菊池川における河道内氾濫原水域分類別の氾濫原依存魚種生息場評価:「研」「審」**
岡村麻矢[※](熊本大学)・上杉幸輔(同)・皆川朋子(熊本大学)
- PD-7 **農業水路における希少タナゴ類の保全技術としての人工産卵床:「研」「審」**
小林蒼茉[※](岡山大学)・宮武優太(同)・青江洋(NPO法人倉敷水辺の環境を考える会)・中田和義(岡山大学)
- PD-8 **青森県上北郡七戸町の谷津水路におけるヤマアカガエルの越冬環境の把握:「事」**
柿野亘[※](北里大学)・高田沙織((株)キクチ)・竹内基(種市高等学校)・眞家永光(北里大学)・丹治肇(同)
- PD-9 **用排兼用土水路に生息する魚類の生態とその保全策の検討:「事」**
遠藤真仁[※](岩手県立大学)・鈴木正貴(同)・辻盛生(同)
- PD-10 **農法と景観構造が水田のカエル類の個体群密度に及ぼす影響 ～環境保全型農法はカエル類の生息に効果的か?～:「研」「審」**
福島庸介[※](兵庫県立大学)・内藤和明(同)・丸山勇氣((株)建設環境研究所)・田和康太(兵庫県立大学)・佐川志朗(同)
- PD-11 **水辺ビオトープにおけるゲンゴロウ類の種組成と生息場所について:「研」**
川崎敦[※](北里大学)・杉浦俊弘(同)・馬場光久(同)

セッションE 河川環境評価

- PE-1 **重信川水系における攪乱レジームと河川動物群集の関係:「研」「審」**
泉哲平[※](愛媛大学)・吉村研人(水資源機構)・井上幹生(愛媛大学)・三宅洋(同)
- PE-2 **河道リーチスケールでの植生・物理環境のモニタリングにおける縦断水位連続観測の有効性:「研」「審」**
吉川慎平[※](大同大学)・鷺見哲也(同)
- PE-3 **2014年の御嶽山噴火から1年後の王滝川水系における秋と冬の付着藻現存量:「研」**
野崎健太郎[※](椋山女学園大学)
- PE-4 **樋井川改修後のシロウオ産卵状況:「研」**
伊豫岡宏樹[※](福岡大学)・皆川朋子(熊本大学)
- PE-5 **扇状地河川における砂州表層の粒度及び凹凸の空間分布特性:「研」「審」**
荒川貴都[※](岐阜大学)・原田守啓(同)
- PE-6 **国内河川における攪乱レジームと底生動物相の関係:「研」「審」**
渡辺裕也[※](愛媛大学)・吉村研人(水資源機構)・赤坂卓美(帯広畜産大学)・森照貴(東京大学)・三宅洋(愛媛大学)
- PE-7 **山間地河道の礫段地形の保全・復元手法に関する基礎的検討～切立川における検討事例～:「研」「審」**
板垣侑理恵[※](岐阜大学)・原田守啓(同)
- PE-8 **表層地質に着目した山地河川の地形特性の基礎的検討:「研」「審」**
天野裕行[※](岐阜大学)・原田守啓(同)
- PE-9 **直轄河川における平常時水位・水面域の推定方法の検討:「研」「審」**
宮脇成生[※]((株)建設環境研究所)・伊藤英恵(同)・加藤康充(同)・永山滋也(土木研究所)・萱場祐一(同)
- PE-10 **矢作川白浜工区ワンドに生育するツルヨシと物理環境に関する考察:「研」「審」**
大濱孝典[※](大同大学)・吉川慎平(同)・鷺見哲也(同)
- PE-11 **幅水深比による河川景観評価の山口県河川への適用可能性の検討:「研」**
関根雅彦[※](山口大学)・王嘉寧(同)・石田信一(山口県河川課)

セッションF 水質浄化・管理

- PF-1 **中小都市河川に流入する高度下水処理水が水生生物相に与える影響:「研」「審」**
中津彰太[※](九州大学)・島谷幸宏(同)・林博徳(同)
- PF-2 **水族園における水質浄化技術の開発と生物多様性の普及啓発:「事」「審」**
松下太郎[※]((株)ウエスコ)・渡辺敏(同)・國居彩子(神戸市立須磨海浜水族園)・平川雄治(同)・山橋正明(豊中市)・松原啓充(同)
- PF-3 **Water Quality Conservation and Environmental Management of the Inle Lake in Myanmar:「事」**
Htet Htet Moe[※](埼玉大学)・藤野毅(同)・Hnin Wityi((株)建設技術研究所)・伊藤一正(同)
- PF-4 **車軸藻によるファイトレメディエーションの研究:「研」「審」**
竹内千尋[※](埼玉大学)・浅枝隆(同)

セッションG 外来種

- PG-1 **外来魚の侵入リスク評価に用いる生物多様性指標に関する比較検討:「研」**
角田裕志[※](埼玉県環境科学国際センター)・満尾世志人(新潟大学)
- PG-2 **外来種アメリカザリガニの駆除手法の検討:「研」**
中田和義[※](岡山大学)・牛見悠奈(同)・白石理佳(同)・竹原早恵(同)
- PG-3 **七ヶ宿ダム(宮城県)におけるコクチバスの試験的な防除の取組み及びその効果:「事」「審」**
坂本正吾[※](応用地質(株))・丸谷成(同)・山本和司((株)復建技術コンサルタント)・阿部富雄(国交省東北地整七ヶ宿ダム管理所)
- PG-4 **榎野川水系におけるコイの河道内移動分布とその食性:「研」「審」**
後藤益滋[※](山口大学)・井上徹志(長崎大学)・城田久岳(香川学園)・合屋知彦

セッションH 遺伝子・微量元素解析

- PH-1 **微量元素およびストロンチウム安定同位体を用いたヒゲナガカワトビケラの発生地判別の可能性:「研」「審」**
工藤誠也[※](弘前大学)・井上博元(岩手大学)・野田香織(弘前大学)・渡邊泉(東京農工大学)・申基澈(総合地球環境学研究所)・東信行(弘前大学)
- PH-2 **河川水中に存在するDNAを活用した重信川の流域内水生昆虫種多様性解析:「研」「審」**
八重樫咲子[※](愛媛大学)・渡辺幸三(同)
- PH-3 **淀川水系下流域のアユ個体群の耳石分析とDNA分析による降河履歴の推定:「研」**
竹門康弘[※](京都大学)・谷口順彦(淀川河川レンジャー)
- PH-4 **日本の気候勾配に沿ったオナシカワゲラ(*Nemoura* sp.)個体群の比較プロテオーム解析:「研」「審」**
山野俊介[※](愛媛大学)・Maribet Gamboa(同)・Maria Claret Lauan(同)・岩田久人(同)・渡辺幸三(同)
- PH-5 **マイクロPIXEを用いた水生生物組織の微量元素分析による生息環境情報の可視化の試み:「事」**
吉富友恭[※](東京学芸大学)・鈴木享子(東京大学)・及川将一(放医研量研機構)・武田志乃(同)

セッションI 魚類生態・生息環境

- PI-1 **土砂供給の影響予測に向けた魚類による淵の水深利用の把握:「研」**
小野田幸生[※](土木研究所)・堀田大貴(同／(株)建設技術研究所)・萱場祐一(土木研究所)
- PI-2 **礫の露出高の違いがアユの採餌におよぼす影響—実験水路における河床操作実験—:「研」「審」**
堀田大貴[※](土木研究所／(株)建設技術研究所)・小野田幸生(土木研究所)・宮川幸雄(同)・末吉正尚(同)・萱場祐一(同)
- PI-3 **イトウの幼魚期と成魚期における食性の比較:「研」**
鈴木享子[※](東京大学／東京学芸大学)・川原満(猿払イトウの会)・加賀谷隆(東京大学)・河口洋一(徳島大学)・清水泰(猿払村漁協)・藤本信治(オホーツク活魚)・永井英俊(猿払鮭鱒漁業)・吉富友恭(東京学芸大学)・大竹二雄(東京大学)
- PI-4 **ネコギギ繁殖場の物理条件及び繁殖場整備手法の検討:「研」「審」**
藤澤貴弘[※](水源地環境センター)・大杉奉功(同)・清水義孝(いであ(株))・南野洋孝(同)・時耕清志(国交省設楽ダム工事事務所)・川村昭彦(同)
- PI-5 **カワヤツメ幼生による河畔林由来落葉分解物の摂取機構:「研」「審」**
荒川裕亮[※](石川県立大学)・柳井清治(同)・村上隆也(同)・三宅克英(同)
- PI-6 **流域特性が回遊性淡水魚類の河川利用に及ぼす相対的重要性:「研」**
満尾世志人[※](新潟大学)
- PI-7 **神通川におけるサクラマス*Oncorhynchus masou*の越夏場所の生息条件の選好性:「事」「審」**
尾関哲史(日本工営(株))・諏佐晃一[※](同)・佐藤利行(国交省北陸地整富山河川国道事務所 *現所属 河川部)・星野康弘(同 *現所属 金沢河川国道事務所)

セッションJ 魚道・横断構造物

- PJ-1 **渓流域の落差工に対する魚道設置効果:「研」**
田原大輔[※](福井県立大学)・片山暢(同)・流守博(福井県建技技術研究センター)・前田健児(同)
- PJ-2 **渓流河川における砂防堰堤スリット化はサクラマスにどのような影響を与えたのか?:「研」「審」**
大場梢(山形大学)・渡邊一哉[※](同)
- PJ-3 **河川横断構造物が魚類の流程分布に及ぼす影響—北上川水系中津川を事例として—:「事」**
辻盛生[※](岩手県立大学)・鈴木正貴(同)・加藤溪(同)・小野寺海人(同)・加藤豪人(同)

セッションK 底生動物

- PK-1 **渡良瀬川における重金属濃度と底生動物相の時空間的变化：「研」「審」**
岩崎雄一[※](東洋大学)・多賀須誠樹(同)・柏田祥策(同)
- PK-2 **Aquatic Insect Community Survey in Chin State, Myanmar:「事」**
Hnin Myat Mon[※](埼玉大学)・Takeshi Fujino(同)・Aung Nanda(MSDES)・Daw Htike Hike(MMU)・Khin kyu Kyu(同)
- PK-3 **矢那川における落葉堆積形態の違いが底生生物相に与える影響:「研」「審」**
佐野尚毅(木更津高専)・菊池祐美(同)・鈴木涼太(同)・松田夏以(同)・湯谷賢太郎[※](同)
- PK-4 **盛岡市近郊に生息するゲンジボタルの生活史:「事」**
栗谷川剛志[※](岩手県立大学)・辻盛生(同)・鈴木正貴(同)
- PK-5 **河川に生息するトンボ目幼虫が好む微生物環境の推定:「研」「審」**
高良真佑子[※](近畿大学)・河内香織(同)
- PK-6 **天然記念物・美郷ホテルの飛翔数とカワニナ生息域の関係性:「研」「審」**
藤宗朋樹[※](徳島大学)・竹川有哉(同)・河口洋一(同)

セッションL 陸域環境

- PL-1 **環境保全措置に対するオオタカの反応:営巣地への蓋がけの事例:「事」「審」**
山本和司[※]((株)復建技術コンサルタント)・田中菜摘(同)・菅原慎一(国交省東北地整福島河川国道事務所)
- PL-2 **アルゴス型GPS発信機を用いた希少猛禽類オジロワシの飛翔特性と風況予測による関係性解析:「研」「審」**
林佑亮[※](徳島大学)・薮原佑樹(同)・内田孝紀(九州大学)・斉藤慶輔(猛禽類医学研究所)・山田芳樹((株)ドーコン)・河口洋一(徳島大学)
- PL-3 **環境影響評価における蝙蝠の調査方法に関する考察(2):「事」「審」**
見上伸[※]((株)日立パワーソリューションズ)・高橋雅也(同)・福井聡(日本気象協会)・和田伸久(同)・魚崎耕平(日本気象協会)・前川聡(くろしお風力発電(株))

セッションM グリーンインフラ・ECO-DRR

- PM-1 **エネルギーの地産地消とグリーンインフラ(その2)-公園緑地の震災避難所としての機能強化施策-:「事」**
藤野毅[※](埼玉大学)・ディペンドラ(同)・飯嶋光幸((株)高橋製作所)・田島克己(NPO秩父100年の森)
- PM-2 **グリーンインフラが有する多機能性を、いかにして引き出すか？
麻機遊水地での防災・生物多様性・健康・地域活性化の取組み:「研」「審」**
上野裕介[※](東邦大学)・大澤剛士(農研機構)・西廣淳(東邦大学)
- PM-3 **日本における都市型グリーンインフラストラクチャーの導入可能性:住宅地における雨水調整池と空き地の活用策の検討:「研」「審」**
高橋栞[※](東邦大学)・上野裕介(同)・西廣淳(同)
- PM-4 **阿蘇地域における植生と斜面崩壊との関連分析～グリーンインフラによる阿蘇草原再生を目指して～:「研」**
天本昌吾[※](熊本大学)・吉廣鎮(同)・皆川朋子(同)

セッションN 地域協働・情報発信

- PN-1 **散布体バンクを活用した水生植物の再生可能性と市民参加型プログラムの検討—東京都内の公園を対象に—:「研」「審」**
白土智子[※](東邦大学)・林紀男(千葉県立中央博物館)・内山香(東京都西部公園緑地事務所)・西廣淳(東邦大学)
- PN-2 **水辺の小さな自然再生を通じた川づくりの人づくりPDCA ～コラボで取組む段階的な人材育成プログラム(試案)～:「事」「審」**
和田彰[※]((株)建設技術研究所)・岩瀬晴夫((株)北海道技術コンサルタント)・三橋弘宗(兵庫県立大学)・原田守啓(岐阜大学)・林博徳(九州大学)・後藤勝洋(リバーフロント研究所)
- PN-3 **沖縄本島億首川におけるマングローブ林の再生管理に向けた協働モニタリングの開発:「研」「審」**
竹村紫苑[※](総合地球環境学研究所)・鎌田磨人(徳島大学)
- PN-4 **島嶼の地域知を活かした海洋保護区の計画—長崎県五島列島三井楽半島の事例:「事」**
清野聡子[※](九州大学)・坂本峻(同)・井上晃輔(同)・滝沢恭平(同)・會津光博(同)
- PN-5 **博物館における微小な生物生態の視覚化に関する調査—欧州の自然史系博物館及び水族館展示調査から—:「事」「審」**
渡辺友美[※](早稲田大学)

【研究発表会・一般講演内容(口頭発表)】

「※」発表者、タイトルの後の「研」は研究報告、「事」は事例報告、「審」は審査対象

口頭発表 9月3日(土)ー2日目ー 9:00～15:30 [会場:一条ホール]

セッションA 河川環境評価

9:00 OA-1 「遺伝情報を用いた魚類移動環境評価の可能性」:「研」

安形仁宏[※]((株)建設技術研究所)・瀬口雄一(同)・太田宗宏((株)建設環境研究所)・飛鳥川達郎(同)・増本育子(中電技術コンサルタント(株))・山原康嗣(同)・村岡敬子(土木研究所)

9:15 OA-2 「環境DNAを用いた河川生物量推定法～回遊性遊泳魚であるアユに着目して～」:「研」「審」

乾隆帝[※](山口大学)・赤松良久(同)・土居秀幸(兵庫県立大学)・一松晃弘(山口大学)

9:30 OA-3 「水文・生息場モデルを用いた河川健全度評価手法の提案」:「研」「審」

糠澤桂[※](宮崎大学)・風間聡(東北大学)・渡辺幸三(愛媛大学)

9:45 OA-4 「微小貝を使った環境評価法の検討」:「研」

芝崎美世子[※](大阪市立大学/大阪自然環境保全協会)

10:00 OA-5 「中小河川における河川環境の整備と保全の目指すべき方向性と目標の検討」:「事」「審」

千葉悠子[※]((株)北海道技術コンサルタント)・渡辺恵三(同)

10:15 OA-6 「市民参加による生物モニタリングが参加者の学びと地域への関心に及ぼす影響―チノービオトープフォレストにおける事例紹介―」:「事」「審」

辻野昌広[※](日本生態系協会)・佐々木雅裕(千葉大学)・相澤章仁(同)

セッションC 魚類生息環境

10:30 OC-1 「河床の細粒底質量とカジカ(大卵型)の摂取餌および栄養蓄積状態との関係」:「研」

尾張由輝也[※](東京大学)・加賀谷隆(同)

10:45 OC-2 「連続砂防堰堤区間での夏季水温上昇」:「研」

鷺見哲也[※](大同大学)・河口洋一(徳島大学)

11:00 OC-3 「テレメリー技術等を用いたサクラマスが生息実態・生息環境特性の把握～黒部川における魚類生息環境の復元に向けて～」:「研」「審」

大石三之[※]((株)建設技術研究所)・長野紀章(同)・高橋裕美(同)・田島洋輔(日本大学)・越野正史(前国交省北陸地整黒部河川事務所)・井田聡(国交省北陸地整黒部河川事務所)

11:15 OC-4 「階段式魚道等の流れ場と魚類の移動環境」:「研」

村岡敬子[※](土木研究所)・萱場祐一(同)

11:30 OC-5 「宮中取水ダムせせらぎ魚道の運用水深変更に伴う効果の検証」:「事」

青木克憲[※](東日本旅客鉄道(株))・竹内洋介(同)・枡本拓(同)

11:45 OC-6 「七ヶ宿ダムにおける外来魚の現状と新しい駆除方法の効果」:「事」「審」

山本和司[※]((株)復建技術コンサルタント)・田中菜摘(同)・阿部富雄(国交省東北地整七ヶ宿ダム管理所)・坂本正吾(応用地質(株))

12:00～13:00 — 休憩 —

セッションE 底生動物

- 13:00 OE-1 「山地流路工を対象とした枠式人工河岸の導入とその効果の検証」:「事」
山下奉海[※](九州大学)・福留峻介(同)・巖島怜(同)・島谷幸宏(同)
- 13:15 OE-2 「河川の平面形状特性が生息場構造へ及ぼす影響」:「研」「審」
高橋真司[※](京都大学)・渡辺幸三(愛媛大学)・大村達夫(東北大学)・竹門康弘(京都大学)
- 13:30 OE-3 「人工角柱粗度周囲の底面流れとチラカゲロウの空間選考性に関する水路実験」:「研」「審」
坂田良介[※](埼玉大学)・田中規夫(同)
- 13:45 OE-4 「矢作川の瀬における造網性トビケラ類から見た河床攪乱と砂州の微地形との対応」:「研」
内田臣一[※](愛知工業大学)
- 14:00 OE-5 「大和川の本川と支川における底生動物群集および攪乱後の過程」:「研」「審」
河内香織[※](近畿大学)・熊谷元気(同)・矢野貴史(同)
- 14:15 OE-6 「土地区画整理事業に向けた流水性イシガイ類の一時的待避場所の検討～移植後2年間の成長・生残・流出の記録から～」:「研」
永山滋也[※](土木研究所)・塚原幸治(ふるさと自然再生研究会)・萱場祐一(土木研究所)
- 14:30 OE-7 「千曲川中流域におけるシマトビケラ科幼虫の二次生産速度の推定」:「研」
平林公男[※](信州大学)・中山美咲(同)・岡田俊典(同)・崔翔気(同)
- 14:45 OE-8 「ダム湖におけるザリガニの濁水耐性」:「研」「審」
飯村幸代[※](北海道栽培漁業振興公社)・中尾勝哉(同)・川井唯史(北海道立総合研究機構)
- 15:00 OE-9 「特定外来植物ヒガタアシの掘削防除で白川河口の底生動物類はどう変化したか?」:「研」「審」
前原裕[※](近畿大学/日本スパルティナ防除ネットワーク)・西野惇志(近畿大学)・木村妙子(日本スパルティナ防除ネットワーク/三重大学)・早坂大亮(近畿大学)
- 15:15 OE-10 「神奈川県の流れの地史、林相、ニホンジカ密度が異なる源流河川における底生無脊椎動物群集の構成の変異」:「事」
大平充[※](神奈川県自然環境保全センター)・内山佳美(同)

セッションB 水質・物質循環

- 9:00 OB-1 「山地河川における河床付着物の一次生産等の推定のためのDO連続観測結果」:「研」
「審」
白鳥実[※]((株)四電技術コンサルタント)
- 9:15 OB-2 「溶存酸素濃度の連続観測を用いた矢作川の一次生産量の推定」:「研」
内田朝子[※](豊田市矢作川研究所)・今泉久祥(伊勢志摩里海学舎)・谷田一三(大阪市立自然史博物館)
- 9:30 OB-3 「テーゲル湖(ドイツ)におけるIDHを活用した気泡循環対策」:「研」
古里栄一[※](埼玉大学)・Jayatu Kanta Bhuyan(同)・Ingrid Chorus(Federal Environment Agency Germany)・Jutta Fastner(同)・今本博臣(水資源機構)
- 9:45 OB-4 「アンカーアイスの形成と剥離および物質輸送に関する現地観測」:「研」
吉川泰弘[※](北見工業大学)・岡部博一(寒地土木研究所)・鳥谷部寿人(同)・田中忠彦(同)
- 10:00 OB-5 「植生管理用貯水トレンチ内の生息生物と貯留水質に関する研究」:「研」
山西博幸[※](佐賀大学)・大石京子(同)
- 10:15 OB-6 「盤州干潟潮間帯泥中の脱窒菌鉛直分布」:「研」「審」
中村亮太[※](木更津高専)・湯谷賢太郎(同)

セッションD 陸域環境

- 10:30 OD-1 「オガルカヤの生育する河川堤防における土壌断面調査」:「事」
白井宏尚[※]((株)ウエスコ)・渡辺敏(同)・藤田庸介(大阪市建設局)・小林誠治(同)
- 10:45 OD-2 「市民参加型モニタリングにより明らかとなった利根運河堤防部におけるセイヨウアブラナ
の分布拡大」:「事」「審」
相澤章仁[※](千葉大学)・田中愛子(同)・辻野昌広(日本生態系協会)
- 11:00 OD-3 「キンラン属3種の生態解明と保全手法の確立に向けて」:「研」「審」
長谷川啓一[※]((株)福山コンサルタント)・大城温(国土技術政策総合研究所)・長濱庸介(同)・光谷友樹(同)・井上隆司(同)・上野裕介(東邦大学)・遊川知久(国立科学博物館)
- 11:15 OD-4 「河川水辺の国勢調査を用いたマクロスケール解析による全国規模での鳥類分布変化の
解明」:「研」「審」
藪原佑樹[※](北海道大学/徳島大学)・赤坂卓美(帯広畜産大学)・山浦悠一(森林総合研究所)・中村太士(北海道大学)
- 11:30 OD-5 「猛禽類調査法:目視/テレメ/GPS調査結果の比較」:「研」
阿部學[※](ラプタージャパン(日本猛禽類研究機構))・中島拓也(同)
- 11:45 OD-6 「猛禽類調査におけるGPS発信器の活用法」:「研」
阿部學(ラプタージャパン(日本猛禽類研究機構))・中島拓也[※](同)
- 12:00 OD-7 「トウキョウサンショウウオの基礎代謝における温度と体重の影響」:「研」「審」
栗田将司[※](木更津高専)・湯谷賢太郎(同)

12:15~13:00 — 休憩 —

セッションF 水生植物

- 13:00 OF-1 「付着藻による河床礫の揚力特性変化に関する基礎研究」:「研」「審」
長谷見優[※](埼玉大学)・田中規夫(同)
- 13:15 OF-2 「佐波川におけるオオカナダモの繁茂・流失要因の検討」:「研」「審」
赤松良久[※](山口大学)・乾隆帝(同)・掛波優作(同)
- 13:30 OF-3 「流路側岸植生帯による砂・粒状有機物の捕捉と横断方向平面二次元解析へのその取り組み」:「研」
尾花まき子[※](名古屋大学)・全浩成(韓国技術研究院)・辻本哲郎(名古屋大学)
- 13:45 OF-4 「琵琶湖における沈水植物群落の変遷」:「研」「審」
波多野圭亮[※](水資源機構)・松永徹(同)
- 14:00 OF-5 「汽水域のヨシ原の成立高さと長期的潮位変動との関連についての考察」:「事」
渡辺敏[※]((株)ウエスコ)・白井宏尚(同)・藤田庸介(大阪市建設局)・小林誠治(同)・松本和功(同)
- 14:15 OF-6 「ハス(*Nelumbo nucifera*)はどの葉からガスを放出しているのか」:「研」「審」
古畑光[※](東京農工大学)・島村誠人(同)・今野凌(同)・利谷翔平(同)・周勝(上海市農業科学院)・寺田昭彦(東京農工大学)・細見正明(同)
- 14:30 OF-7 「The effect of iron exposure on oxidative stress and antioxidative responses of *Egeria densa*」:「研」「審」
Mahfuza Parveen[※](埼玉大学)・Takashi Asaeda(同)・Md H. Rashid(同)
- 14:45 OF-8 「Photosynthetic performance and stress response of *Potamogeton anguillanus* to salinity」:「研」「審」
Hendadura Chandani Chalanika De Silva[※](埼玉大学)・Takashi Asaeda(同)
- 15:00 OF-9 「Variation of intracellular 2-MIB in cyanobacterium *Pseudanabaena galeata* and its relation to nutrient limitation」:「研」「審」
Helayaye Damitha Lakmali Abeynayaka[※](埼玉大学)・Takashi Asaeda(同)
- 15:15 OF-10 「Revisiting SCDM (Sverdrup Critical Depth Model) and quantifying the importance of P-I(Photosynthesis-Irradiance) equation – Case study without photoinhibition-」:「研」「審」
Jayatu Kanta Bhuyan[※](Brandenburg University of Technology)・Eiichi Furusato(埼玉大学)・Marion Martienssen (Brandenburg University of Technology)・Brigitte Nixdorf(同)・Hiroomi Imamoto(水資源機構)

応用生態工学会第20回大会（20周年記念東京大会） 開催案内

開催日時 平成28年9月2日（金）～5日（月）

日程：9月2日（金） 研究発表会 ポスター発表、自由集会
9月3日（土） 研究発表会 口頭発表、自由集会、懇親会
9月4日（日） 総会（午前）、公開シンポジウム（午後）
9月5日（月） エクスカーション（渡良瀬遊水地、首都圏外郭放水路 他）

会場：東京大学 農学部 弥生講堂、農学部第1号館（東京都文京区 東京大学弥生キャンパス内）
本大会は、土木学会継続教育（CPD）プログラムに申請予定です。

参加申し込み（研究発表会・総会・エクスカーション）

URLの申し込みフォームで受け付けます。また、ファックスでの申し込みも可能です。参加申込書（裏面）に必要事項を記入の上、右記へファックスして下さい。なお、詳細は裏面をご参照ください。

●申し込みおよび問合せ先
応用生態工学会事務局
〒102-0083 東京都千代田区麹町4-7-5
麹町ロイヤルビル405号室
TEL:03-5216-8401 FAX:03-5216-8520
E-mail:tokyo_20th@ecesi.com
【大会実行委員長：虫明功臣（東京大学名誉教授）】

公開シンポジウム「気候変動下における自然と地域社会のレジリエンスー応用生態工学の新たな展開ー」

＜日時＞平成28年9月4日（日曜日） 13:00～17:00

＜場所＞東京大学農学部 弥生講堂一条ホール

公開シンポジウム
参加費：無料

＜開催主旨＞

応用生態工学が目標とする「人と生物の共存」「生物多様性の保全」「健全な生態系の持続」を実現するためには、地域における自然環境の保全と人間の暮らしを調和させる必要がある。一方で、地球温暖化に伴う豪雨災害が多発し、それに伴って国土強靱化が叫ばれ、平成27年11月には気候変動適応策が閣議決定された。このような状況に対して、環境と地域社会のレジリエンスを高めることが、未来を見据えた重要なテーマとなっている。応用生態工学はこれまで生態学・工学の間の学際領域に新しい視点をもたらしてきたが、今後は社会学・経済学等とも連携し、総合化を図ることがこの課題に対する応用生態工学の果たすべき役割であると考えられる。本シンポジウムは応用生態工学会20周年記念大会のハイライトとして、この応用生態工学の新たな展開を議論し、地域社会への貢献の方策を探る機会とする。

＜プログラム＞

13:00 趣旨説明

13:10 第1部 「応用生態工学の評価と課題」

- ・応用生態工学会会長 辻本哲郎（名古屋大学名誉教授）
- ・応用生態工学会前会長 谷田一三（大阪府立大学名誉教授）

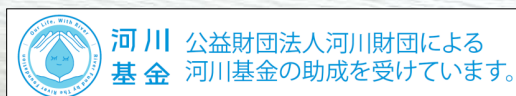
第2部 「新たな視点と連携」

- ・島谷幸宏（九州大学教授）
- ・西廣淳（東邦大学准教授）
- ・広田純一（岩手大学教授）
- ・宮内泰介（北海道大学教授）

第3部 パネルディスカッション

コーディネーター：中村太士（北海道大学教授）

パネリスト：第2部登壇者、行政関係者等



後援（予定）：国土交通省関東地方整備局、河川財団、東京大学、建設コンサルタンツ協会関東支部、土木学会関東支部、日本緑化工学会、日本景観生態学会

会場と交通（研究発表会・懇親会・公開シンポジウム）

東京大学農学部 弥生講堂, 1号館

〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1 東京大学弥生キャンパス内

TEL 03-5841-8205(弥生講堂1号館)

URL: <http://www.a.u-tokyo.ac.jp/yayoi/>

交通: 地下鉄: 東京メトロ南北線「東大前」駅下車 徒歩1分

東京メトロ千代田線「根津」駅下車 徒歩8分

都営バス: 御茶ノ水駅(JR中央線・総武線)より

茶51駒込駅南口又は東43荒川土手操車所前行

「東大(農学部前バス停)」下車 徒歩1分

参加費（研究発表会・懇親会・エクスカッション）

研究発表会 会員: 6,000円、非会員: 10,000円、学生(会員・非会員): 3,000円

参加費には発表講演集代が含まれております。発表講演集のみ希望の方は、3,000円で販売しております。

※大会期間中は9月2日(金)のみ学食の営業があります。大学周辺にはコンビニエンスストア、飲食店があります。別途1,000円でお弁当の用意ができます。必要な方は参加申込みと同時に申し込みください。

エクスカッション 会員・賛助会員: 2,000円、非会員: 3,000円、学生(会員・非会員): 1,000円

懇親会参加費 5,000円（当日徴収します。人数把握のため事前にお申込みください。）

参加費振込先（研究発表会・懇親会・エクスカッション）

銀行振込口座

銀行名 : 東京三菱UFJ銀行麹町中央支店

口座番号:(普通)1302920

口座名称: 応用生態工学会(オウヨウセイタイコウガクカイ)

郵便振替口座

口座番号: 00140-7-404275

口座名称: 応用生態工学会

参加申込書（研究発表会・懇親会・エクスカッション）

URL: http://www.ecesj.com/FS-APL/FS-Form/form.cgi?Code=annual_conEntry

FAX 宛先 03-5216-8520 E-mail: tokyo_20th@ecesj.com

申込締切りは2016年8月20日(土)迄
振込締切りは2016年8月25日(木)迄

(ふりがな) 氏 名			会員No.(正・学生・賛助)	
所 属				
連絡先 (自宅・所属) いずれかに○	〒 住所 TEL e-mail:			
参加申込			参加費(必要箇所)に✓	
研究発表会 (発表要旨集代込)	9月2日(金)ー3日(土)	参加・不参加	☐ 会員(6,000円) ☐ 非会員(10,000円) ☐ 学生(会員・非会員)(3,000円)	
懇親会	9月3日(土)	参加・不参加	当日徴収します(5,000円)	
シンポジウム	9月4日(日)	参加・不参加	無料	
エクスカッション	9月5日(月)	参加・不参加	☐ 正会員・賛助会員(2,000円) ☐ 非会員(3,000円) ☐ 学生(会員・非会員)(1,000円)	
昼食の注文	9月2日(金)分	必要・不要	☐ 必要(1,000円)	大会期間中、学食の営業は2日(金)のみです。 会場周辺には飲食店、コンビニエンスストアがあります。
	9月3日(土)分	必要・不要	☐ 必要(1,000円)	
	9月4日(日)分	必要・不要	☐ 必要(1,000円)	
研究発表会に参加しないが、発表要旨集のみ希望 (研究発表会に参加される方は研究発表会参加費に発表要旨集代が含まれています。)				
参加費の合計			合計	円
連絡事項	請求書を希望する場合は「請求書希望」と記載してください。			

